

令和4年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業



令和4年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（主催＝日本武道館、全日本空手道連盟、日本武道協議会、協力＝大阪府立摂津支援学校、後援＝スポーツ庁）が10月31日、大阪府立摂津支援学校において研究者9名、研究協力者4名、連盟事務局2名が出席して実施された。

はじめに、会場となった大阪府立摂津支援学校の藤井雅乗ふじいまさのり学校長から挨拶をいただき、開講式では、日下修次くさか しゅうじ全日本空手道連盟顧問と和田健わだ たけし日本武道館振興課長、研究者を代表して小山正辰こやま まさし研究者が挨拶を述べた。

開講式の後には体育館に移動し、研究協議(1)「特別支援学校における空手道授業指導法について」として視察を行った。はじめに、松崎和繁まつざきかずしげ研究協力者から、空手道における形についての説明が行われた。続いて、生徒たちを前に全日本ナショナル強化選手である岩本衣美里いわた えみり研究協力者によるアーナンの演武が行われた。はじめは大きな声や音に驚く生徒もいたが、真剣な眼差しで最後まで演武を見届けると、大きな拍手が沸き起こった。

演武後、松崎研究協力者の指導のもと、突き・受けの練習を行った。その際、左右色違いの手袋を着用することで、視覚的にわかりやすく、基本動作の練習がスムーズに進むという工夫がなされていた。その後、柔らかいミットを使って突き・蹴りの練習、プールスティック（発泡ポリエチレン製）を使っての受けの練習が怪我のないよう安全面を配慮して行われた。

続いて、松崎研究協力者が「決して人に向かって突いたり蹴ったりせずに、空手道で優しい心を育んでほしい」という内容の講話を行った。最後に、曲に合わせて「基本形一」や基本動作を反復する「パプリカラテ」を行い、授業が終了した。

午後からの研究協議(2)は、「特別支援学校における空手道授業の実践事例について」として、摂津支援学校の藤井校長、大西弘祐おおにしこうすけ教諭、浅井一人あさいかずひと研究協力者、太田熊野おおたゆうや研究協力者が実践報告を行った。続く研究協議(3)「特別支援学校での空手道授業における課題と今後の取り組み」では、「軽度と重度の知的障がいの生徒がいた場合の授業内容について」の協議を行い、研究協議(4)「各研究者からの報告事項について」をもって研究協議が終了し、閉講式が行われ、全日程を終了した。



生徒の前で演武を終えて
岩本衣美里研究協力者

「演武を見ることに集中してくれて嬉しかったです。生徒たちがモチベーションを上げて授業に取り組めたのなら、やってよかったと思います。また、授業後、空手道に興味を持ってくれた生徒が話しかけてくれたことも嬉しかったです。重度の知的障がいがある生徒の前で演武をしたのは今回が初めてですが、空手道は、そういった子どもたちにとっても色々な可能性があると感じ、これからの空手道の発展に期待が膨らみました」